

# 敬愛ビジョン 2030

## 千葉敬愛学園ビジョン 2030

### 1. 選ばれる学校づくり ～個性と特色のある教育機関となる～

本学園は「敬天愛人」の建学の精神のもと、「思いやりのある豊かな心」を持つとともに、現代社会を生き抜くための「しなやかさ」を養う個性と特色ある教育機関を目指してきましたが、今後 15 歳人口・18 歳人口の減少が本格化し、学校間の競争が一段と厳しくなることが予想される中で、更に各学校の個性と特色を明確化することにより、受験生をはじめとするステークホルダーから選ばれる教育機関となることを目指します。

- (1) 学園創立 100 周年に向けて、学園のブランドを確立し、広く社会に発信します。
- (2) 本学園における教育研究及び様々な事業活動を通して、国連が提唱する国際目標である SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献する取組を推進します。
- (3) 各学校の特色と優位性を効果的に広報し、入学者の確保に努め、収容定員の充足を図ります。

### 2. 新たな学びの創造 ～教育の質的転換と教育力の向上を図る～

AI と情報通信技術が著しく進展・普及する Society5.0 という新しい時代において、グローバルに活躍できる人材を養成するため、教育課程を抜本的に見直すとともに、アクティブラーニングや ICT の活用により教育の質的転換と教育力の向上を図り、新たな学びを創造します。

- (1) 最大のステークホルダーである学生生徒園児（又はその保護者）の満足度を高めま
- す。
- (2) 建学の精神である「敬天愛人」による人格の涵養を基盤にしつつ、学生生徒園児が自らの可能性を最大限に伸ばすことができる教育を行います。
- (3) 「敬天愛人」を踏まえた、現代における具体的な行動指針として、全学生生徒が SDGs について主体的に学ぶことで、持続可能な社会の創り手を育成します。また、インクルーシブ教育の観点から、全学生生徒が多様な価値観と個人の特性を認め合う人格を涵養します。
- (4) AI の急速な進化など技術革新が目覚ましく進展・普及し、Society5.0 という新しい時代の到来する中、今後の社会で活躍できる人材の養成という視点を十分考慮して、各学校において明確な人材養成目的と目指す学習成果を具体的に掲げます。
- (5) 人材養成目的及び目指す学習成果の達成を目指して、教育課程の体系的な編成、学習成果の可視化と教育内容・教育方法の改善等を組織的に進めるため、大学・短大における教学マネジメント、高校・幼稚園におけるカリキュラムマネジメントを確立します。
- (6) 学生生徒の主体的な学びの質を高めるため、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）の視点からの授業改善を進めます。
- (7) ICT の活用による教育の刷新を目指し、各学校に ICT 環境を段階的に整備するととも

- に、教員の ICT 活用指導力の向上を図り、授業改善に取り組みます。
- (8) グローバル人材を育成するため、学生生徒の留学機会の増大、質の高い留学生の受け入れ等により、国際交流の機会を拡充します。
  - (9) 大学・短大においては、学修者の視点から履修の幅を広げられるように、多様で柔軟な教育プログラムを提供します。
  - (10) eラーニング等を活用して、社会人の学び直しニーズに対応した教育プログラムを提供します。

### 3. オール敬愛による学園づくり ～新たな総合学園を共創する～

本学園は、大学、短大、高校2校、幼稚園から構成される総合学園として確固たる地位を築いており、この総合学園としての強みは、今後予想される私学間の競争において有利に働くものであり、教育研究力の向上や地域貢献の面においても大きなメリットがあることから、今後は学園内の各校の連携をこれまで以上に強化し、教育力の向上を図り、総合学園として更なる発展を目指します。

- (1) 大学・短大・高校・幼稚園の連携強化により、教育研究力の向上や地域貢献等の充実を図ります。
- (2) 短大を稲毛キャンパスに移転することにより、総合学園として魅力ある教育環境の整備を行います。
- (3) 教員の人事交流や入試広報、就職支援等の業務に関する連携、短大から大学の教育学部への編入学の途が拓けるような方策の検討等により、大学と短大との連携強化を図ります。
- (4) 大学・短大と両高校の連携を強化して、大学・短大からの講師派遣、高大連携授業・カリキュラムの創設、附属幼稚園・さくら敬愛保育園でのインターンシップの実施等により、両高校から大学・短大への内部進学者を増加させます。
- (5) オール敬愛による協力体制を強化して寄付金募集などを組織的に行い、2026年に学園創立100周年事業を実施します。

### 4. 地域の伴走者 ～地域との関わりを重視し、地域に愛される学園運営をする～

本学園は地域を重視し、これまでも地域の人々に生涯学習の機会を提供するとともに、研究成果の還元やボランティア活動などにより地域社会に貢献してきましたが、今後も「地域の伴走者」として、地域との関わりを重視し、地域から愛され、頼りにされる学園運営を実践します。

- (1) 教育研究活動やボランティア活動などにより、地域のまちづくりに貢献します。
- (2) 大学の総合地域研究所や短大の総合子ども学研究所を再編強化し、その研究成果を地域の課題解決に役立てます。

- (3) 大学・短大の地域連携の総合窓口として地域連携センターの活動の充実を図ります。
- (4) 人生100年時代に向け、地域住民の生涯学習や職業人の再教育等を担う生涯学習センターの活動の充実を図ります。
- (5) 他大学との連携による「ちば産学官連携プラットフォーム」事業の充実を図ります。

## 5. 学園の永続のために ～安定的な財政基盤を確立し、効率的な管理運営を行う～

学生生徒園児、保護者、地域社会など、学園に関係する様々なステークホルダーに満足度の高い教育研究のサービスを提供し続けるためには、人事・財務・施設・組織マネジメント等における優れた管理運営が必要となります。特に、私学を巡る経営環境が厳しくなる中で学園が永続するためには、安定的な財政基盤の確立と魅力的な教育環境の整備、効率的な管理運営を進めることが不可欠です。

### (1) 人事

- ① 少数精鋭を基調とする適正な人事配置を行います。
- ② 働き方改革に対応して、出退勤管理システムの導入等による労働時間管理を進めるとともに、時間外勤務や休日勤務の抑制に努めます。
- ③ 人材育成システムの構築に向けて、FD研修・SD研修を充実するとともに、公平公正な人事考課制度を確立します。
- ④ 女性教職員が一層活躍できるよう、女性の管理職等責任ある役職への登用を促進します。

### (2) 財務

- ① 本ビジョン及び中期計画実現のため財政基盤強化の方策を策定するとともに、学園創立100周年を見据えた5カ年間の財政計画を作成します。
- ② 中期計画の具体的な取組にあたっては、財政の長期安定化が欠かせないため、財政計画作成にあたっては数値目標を設定し、人件費を含む経常的な経費の抑制に努めるとともに自己財源の確保に努め、もって基本金組入前当年度収支差額の恒常的な黒字化を目指します。
- ③ 今後計画されているキャンパス整備に係る費用を盛り込んだ資金計画が実現可能となるよう、計画に基づいて資金の特定資産化を図り、キャンパス整備に必要な経費に充てます。
- ④ 各部門の事業活動収支についても安定的に黒字化できるよう、教職員の財政・収支への意識・理解向上を図り、費用対効果等の観点から経費全体を見直すとともに、収入手段の拡大等の検討を行います。

### (3) 施設設備

- ① 稲毛キャンパス整備計画に基づき、学園高校の新アリーナ、大学・短大の新校舎及び学園高校の新校舎を順次建設します。

- ② 優先順位を付けて、ICT 環境の整備や学校の特色を活かせるような教育環境の整備に努めるとともに、既存の施設設備の計画的なメンテナンスや更新等に努めます。

#### (4) 組織運営

- ① 短大の稲毛キャンパスへの移転に合わせて、大学と短大の事務組織・センターの一元化等必要な組織改革を行います。大学と短大の教員の兼務を進めます。
- ② 自己点検評価、外部評価を活用し、中期目標・計画の実現や教育の質保証などに関して PDCA サイクルを実質的に機能させます。
- ③ 電子決裁システムや生成 AI の活用により、業務の効率化を推進します。
- ④ 大規模災害への対応など危機管理体制の整備を図るとともに、情報セキュリティ対策、個人情報の保護、ハラスメントの防止など、リスク管理対策を進めます。

#### (5) 組織ガバナンスの強化

- ① 「中期計画 2029」、「年度事業計画」について、達成目標及びその進捗管理を客観的に点検し、PDCA サイクルのさらなる実質化・高度化を図っていきます。
- ② 各校の自主・自立的な管理を促進するため、学園の運営状態の理解及び浸透を図るための機会（研修会、勉強会等）を設け、PDCA サイクルに基づく改革・改善活動を促進することで、学園の自律的な運営改善能力を高めます。
- ③ 私立学校法の改正に伴い、寄附行為、諸規程等を改正し、理事・理事会、監事及び評議員・評議員会の権限分配を整理し、建設的な協働と相互牽制を確立します。

#### (6) 情報公表

- ① 学校法人は、日本の教育の大きな担い手であり、公共性が高く、社会に質の高い重要な労働力を提供する機関であることを踏まえ、法人運営・教育研究活動等について、透明性の確保にさらに努めます。
- ② 入学希望者やその保護者、高校関係者、地域住民、学生を採用頂いた企業、卒業生など、学園における広義のステークホルダーに対して、経営・財務状況、教育・研究活動について、分かりやすく積極的に情報を公表していきます。また、積極的に情報を公表していくことで、ステークホルダーとの信頼関係構築に努めます。

## 敬愛大学ビジョン 2030

### 1. 学生の主体性を尊重する大学 ～学生一人ひとりを輝かせる～

学修、学生生活、就職、地域貢献・ボランティア活動等を学生が自ら考え選択し主体的に行動することを、全面的にサポートする大学となります。

### 2. 「敬天愛人」教育の推進 ～謙虚な学びと責任ある実践～

建学の精神である「敬天愛人」を教育の支柱とし、高く幅広い視点から謙虚に学び自ら考え(敬天)、社会や地域、人との関係を責任をもって、より良くしていこうとする実践力を育て、SDGs(持続可能な開発目標)の実現に貢献します(愛人)。

### 3. 新たな時代の変化に対応する教育 ～Society5.0に対応できるAI人材を養成～

IT革命後のSociety5.0の到来をチャンスにとらえ、「人間の強み」を発揮する想像力(Imagination)と創造力(Creativity)の双方を豊かに備えてAIを活用できる人材を目指し、不断の学部等の改革を実行します。

### 4. グローバルな社会における多様な人々との協働 ～ボーダーを超える～

国や人種、性別、大学や地域、学部学科や専門性のボーダーを超えた様々な人々との協働、産学官の連携を推進し、地域社会の中核となる人材を養成します。

### 5. リカレント教育の展開 ～生涯にわたり学び続ける生き方への支援～

リカレント教育を充実させ、時代の変化に合わせていつでも何度でも学び直すことができ、長く健康で豊かな人生を送ることのできる社会の実現に貢献します。

### 6. 学生数の安定的な確保 ～収容定員の充足を目指して～

学生数の安定的確保は、大学運営の基盤をなすものであることを踏まえ、学生募集方法、入試方法の見直し等により入学者を確保するとともに、中途退学を抑制し、収容定員の充足に努めます。

### 7. キャリア教育と就職支援の充実 ～就職支援の精度の向上～

キャリア教育と就職支援の接続によって、教職協働による総合的な就職支援体制を構築し、学生が卒業後に実社会で活躍できる知識・スキル・能力を教養教育・専門教育・キャリア教育で身に付け、希望する就職を実現することを支援します。また、就職実績を上げることで、産業界や一般社会からの大学の評価がさらに高まっていくことを目指します。

# 敬愛短期大学ビジョン 2030

## <持続的に選ばれる保育者養成校を目指す>

### 1. 短大のブランドの一層の強化

(1) 建学の精神である「敬天愛人」を踏まえた現代における具体的な行動指針として、

学生に SDGs（持続可能な開発目標）について学ばせ、持続可能な社会の創り手を育成します。具体的には、総合子ども学研究所が実施している公開講座の中で、外部の講師（例えば、国連職員や専門家等）を招き啓発活動に努めます。地域との連携を深め「住み続けられるまちづくり」（SDGs 目標 11）を目指します。健康・体力づくりで「すべてに健康と福祉を」（SDGs 目標 3）を目指します。

(2) 保育に特化して“認定絵本土”“男性保育者”養成といった特色を打ち出し、県内の保育・教育を牽引する教育機関となることを目指します。

(3) 「2.5 教育」（入学前教育）を推進します。

高大接続の独自のプラン「2.5 教育」を定着化させます。これまでの実績を基礎に、接続を想定した高校と「連携した教育課程」をつくり、可能であれば単位化を考えます。

(4) ゼミ制を導入します。

現在のクラス制を堅持しながら、専任教員の特色を生かしたゼミ制を取り入れます。初年次教育として1年次の「敬愛スタートアップゼミ」を、専門・応用教育として2年次の「敬愛ブラッシュアップゼミ」を導入し、学生たちの特徴ある資質を引き出します。付加価値を付けることで「伸びしろ」のある学生の育成を目指し、教育の質の向上を図ります。

(5) 「絵本専門士」取得への道筋を用意します。

「認定絵本土」取得は本短大のブランディングの一つです。卒業3年後の「絵本専門士」申請のサポートをします。

(6) 「言語力の育成」に力を入れます。

日本語検定等へのチャレンジを勧め、豊かな表現力を身につけコミュニケーション力を育てます

### 2. 学生数の安定的な確保 ～収容定員の充足を目指して～

学生数の安定的な確保は、短大運営の基盤をなすものであることを踏まえ、系列校、教育連携協定校との連携強化、「離職者等再就職訓練事業」の実施等により入学者を確保するとともに、中途退学を抑制し、収容定員の充足に努めます。

## 千葉敬愛高等学校ビジョン 2030

千葉敬愛高等学校は、新たな教育目標として「敬天愛人精神にあふれた人間の育成」「主体的に学び自ら課題を解決できる人材の育成」「夢と志を持ち世界に通用する人材の育成」を掲げ、未来の創り手となるために必要な「生きる力」を育む教育を展開します。

### 1. 自発的な学びを尊ぶ教育の推進

幅広く教科・科目の基礎基本を習得させつつ、総合的な探究の時間を利用して、生徒の知的好奇心を引き出しながら広い視野で物事を判断できるよう社会に開かれた教育課程を実践します。

### 2. 文武両道を目指した取組

これまでどおり「文武両道」をモットーに、部活動への積極的な参加を促しつつ、同時に進学実績の向上を図り、心技体を鍛える教育を推進します。

### 3. 敬天愛人のもと持続可能な社会への貢献

「敬天愛人講座」の充実を図るとともに、様々な教育活動において、自己解決力や課題発見力を育てる指導を行いながら生徒の人間力を高めていきます。また、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献する人材を育成します。

### 4. ICT 教育の推進

ICT を活用したアクティブラーニングを積極的に取り入れ、教育方法の質的転換を図りながら学力の向上を図ります。

### 5. 生徒主体の活動の推進

部活動・生徒会活動・各種行事など様々な場面をとおして、生徒が主体的に課題解決に取り組み、協働を原理として問題解決を図れる人材を育成します。

### 6. 地域とともに

創立 100 周年に向け、PTA・同窓総会・後援会等と力を合わせ、地域との連携をさらに充実させるとともに、各種ボランティア活動への参加を促します。

### 7. 生徒数の確保

従来からの入試方法を見直し、志望状況を鑑みながら適正な入学者を確保します。

### 8. 生徒の進路

生徒の進路については、しっかりとした進路実現に取り組むことで、選ばれる高校となることを目指します。



## 敬愛学園高等学校ビジョン 2030

敬愛学園高等学校では、建学の精神「敬天愛人」の校風樹立を保護者、地域と連携しながらすべての領域で推進し、高い知性と倫理観を備え心身共に健康なグローバル社会で活躍できる人材を育成します。

### 1. 確かな学力の定着・伸長と探究型学習の推進

コース制・習熟度別授業・少人数指導や課外補講により、確かな学力の定着・伸長を図るとともに、「総合的な探究の時間」・「理数探究」をはじめとして、各教科の授業において ICT 機器を活用しながら、他者との協働を通じて問いを発見、追究する探究型学習を推進します。

### 2. 科学的思考力の育成、データサイエンスの活用

理数教育では観察や実験などの体験的で課題解決的な活動を行います。特に「理数探究」ではデータサイエンスも活用し、科学的思考力や発信力をします。

### 3. 国際理解教育の充実

英語教育では、4 技能すべてにおいて実践的実用的な英語力を伸長するとともに、様々な場面において SDGs（持続可能な開発目標）を意識した教育活動を行い、多様な価値観を認め合う姿勢を身に付け、グローバル社会で活躍できる人材を育成します。また、長期留学制度及び短期留学制度の一層の充実を図ります。

### 4. 自主的・主体的な活動の推進

部活動や学校行事などを充実させ、生徒が自律的、自治的に活動する機会を設けることにより「生きる力」を育み、変化の激しい社会を主体的に生きていけるよう生徒を育成します。

### 5. 生徒数の確保

少子化対策や社会のニーズに応え、絶えず入試制度改革を行い、適正な入学者を確保します。

### 6. 生徒の進路

生徒の進路については、変化の激しい社会を主体的に生きるための確かな学力を育成し、生徒それぞれの進路実現を目指してきめ細かく指導することで、中学生・保護者に選ばれる高校となることを目指します。

### 7. 新校舎の建設

新校舎建設計画に基づき、2028 年度の竣工に向けて準備を進めます。新校舎建設に当たっては環境に配慮した施設を設計し、文教地区、稲毛に発信できるシンボリックな施設となることを目指し、魅力ある教育環境の整備を行います。

## 認定こども園敬愛短期大学附属幼稚園ビジョン 2030

これからの時代はこれまでと全く違う想像を超えた時代になることが予想されます。その時代の中心で力強く生き抜く子どもたちを育てるため、幼児期に必要な資質を高めるとともに、充実した遊びを通した学びができる環境を整備し、子どもたちの「考える力」「表現する力」「主体的に行動できる力」を育みます。そのために、建学の精神「敬天愛人」が一人ひとりの心に宿る様々な場や機会を提供します。

具体的な行動計画として本園ならではの教育の特色として以下の5つの事項を具現化します。

### 1. 科学的環境づくりプロジェクト（幼稚園まるごとミュージアム）

園内各所で、いつでも・どこでも子どもたちが科学的な遊びができる環境づくりのためのプロジェクト（子どもたちが科学的な遊びを楽しみ、遊び方を自ら考えるための手法と場の開発）を推進します。

### 2. “ことばの泉づくり”プロジェクト

美しい日本語を身につけ、語彙力を高めることにより（学び）、表現力豊かなコミュニケーション能力（使う・活かす）を育むためのプロジェクト（幼児期に獲得することばと表現力を最大限に育むための手法と場の開発）を推進します。

### 3. 高い幼児教育力を備えた職員の養成

短大との連携を一層密にし、共同研究及び研究開発を推進するとともに、敬愛幼稚園としてのブランドを確立し、高い資質を備えた教職員のいる幼稚園としての存在価値を高めます。

### 4. 保護者の期待に応えられる付加価値の高い教育力を備えた幼稚園

子どもたちを取り巻く環境は大きく変わってきており、今後も共働きの家庭が増えてくることが想定されます。そのため、幼稚園型認定こども園としての役割と機能を十分に活かし、家庭や地域の子育てを支える場として敬愛幼稚園の教育が認知され、多くの保護者から選ばれる幼稚園を目指します。保護者対象に満足度調査を行い、満足度 90%以上を目指します。

### 5. 幼稚園の将来に向けて

幼稚園の将来的な発展のため、園児の確保等について教職員が一丸となって取り組み、幼稚園の安定的な運営を目指します。